

## 第2 茨城県の交通事故

### 1 県内の交通事故発生状況

#### (1) 概要

発生件数は、平成12年をピークに平成13年から7年連続で減少し、負傷者数も減少した。死者数は、178人と前年より61人減少し、昭和34年以来48年振りに100人台となった。

しかしながら、本県の死者数の全国順位は、ワースト第11位、人口10万人当たりの死者数は全国ワースト第17位と、依然として死亡事故多発県に位置している。

#### (2) 第1当事者の年齢別発生状況(P29~38参照)

「20歳代」は、発生件数(4,931件、全事故の24.2%)、死亡事故件数(42件、全死亡事故の24.6%)とともに最も多い年齢層になっているが、前年比では発生件数(-511件)、死亡事故件数(-9件)とも減少した。

「高齢者(65歳以上)」の発生件数は2,507件(全事故の12.3%)、死亡事故件数は26件(全死亡事故の15.2%)で、前年比では発生件数(-102件)、死亡事故件数(-18件)とも減少した。

#### (3) 月別発生状況(P39~41参照)

「8月」(1,880件)が最も多く、次いで「12月」(1,855件)、「10月」(1,818件)の順となっている。前年比では「4月」(+10件)のみが増加し、「1月」(-307件)、「12月」(-290件)が大きく減少した。

死者数では「4月」が19人で最も多く、前年比では「4月」が増減なし、「10月」及び「11月」(各-10人)が大きく減少した。

#### (4) 曜日別発生状況(P42~43参照)

「金曜日」(3,196件)が最も多く、「日曜日」(2,336件)が最も少ない。

他の曜日は、ほぼ同数となっている。前年比では増加した曜日はなく、「水曜日」(-377件)が大きく減少した。

死者数は「木曜日」及び「土曜日」(各32人)が最も多く、前年比では「木曜日」(+6人)の増加が多い。

#### (5) 時間別発生状況(P44~45参照)

「8~9時」(1,846件)が最も多く、次いで「17~18時」(1,818件)の順となっている。

前年比では「4~5時」(+9件)が増加し、「15~16時」(-231件)、「8~9時」(-163件)が大きく減少した。

死者数では「19~20時」(13人)が最も多く、次いで「18~20時」(12人)、「17~18時」(11人)の順となっている。前年比では「13~14時」(+5人)の増加が多く、「0~1時」(-9人)、「20~21時」(-8人)が大きく減少した。

#### (6) 路線別発生状況(P46~54参照)

「市町村道」(8,463件、全事故の41.5%)が最も多く、次いで「国道」(5,926件)、「県

道」(5,028件)の順に多い。

死者数では「県道」(60人、全死者の33.7%)が最も多く、次いで「国道」(58人)、「市町村道」(55人)の順に多い。

(7) 道路形状別発生状況(P55~57参照)

発生件数は、「直線」(8,833件、全事故の43.3%)が最も多く、次いで「交差点」(7,032件)の順に多い。前年比では「交差点」(-2,308件)が大きく減少した。

死者数は「直線」(79人、全死者の44.4%)が最も多く、次いで「交差点」(61人)の順に多い。

(8) 第1当事者の車両別発生状況(P58~61参照)

「普通乗用自動車」が、発生件数(11,955件、全事故の58.6%)、死亡事故件数(75件、全死亡事故の43.9%)ともに最も多い。前年比では「普通乗用自動車」(-1,294件)、「普通貨物自動車」(-424件)が大きく減少した。

(9) 第1当事者の事故類型別発生状況(P62~67参照)

「追突」(7,753件、全事故の38.0%)が最も多く、次いで「出会い頭」(5,796件)の順で、この2つで全事故の約7割(66.4%)を占める。前年比では「左折時」(+35件)の増加が多く、「追突」(-723件)が大きく減少した。

死者数では「出会い頭」(44人、全死者の24.7%)が最も多く、次いで「歩行者横断中」(35人)の順に多い。前年比では「正面衝突」(-11人)が大きく減少した。

(10) 第1当事者の原因別発生状況(P68~73参照)

前方不注意や安全不確認等の「安全運転義務違反」(16,500件、全事故の80.8%)が最も多く、次いで「信号無視」(795件)、「一時不停止」(758件)の順に多い。

死亡事故件数では「前方不注意」(29件、全死亡事故の17.0%)が最も多く、次いで「最高速度」(27件)、「運転操作不適」(16件)の順に多い。前年比では「信号無視」(+5件)、「最高速度」及び「横断自転車妨害」(各+3件)の増加が多い。

(11) 警察署別・市町村別発生状況(P74~99参照)

警察署別では「水戸署」(3,205件)が最も多く、次いで「土浦署」(1,735件)、「つくば中央署」(1,237件)の順、死者数では「鹿嶋署」(17人)、次いで「筑西署」(15人)、「つくば中央署」(13人)の順となっている。

市町村別では「水戸市」(2,811件)、次いで「つくば市」(1,489件)、「土浦市」(1,382件)の順、死者数では「神栖市」、「つくば市」及び「筑西市」(各15人)、次いで「水戸市」(10人)の順に多い。

人口1,000人当たりの発生件数は、「水戸市」(10.66件)、「土浦市」(9.60件)、「那珂市」(9.43件)の順に多い。

(12) 年齢状態別死傷者数(P100~109参照)

状態別では「四輪車運転中」が、死者数(57人、全死者の32.0%)、負傷者数(15,241人、全負傷者の57.1%)ともに最も多い。

年齢別死者数では「高齢者(65歳以上)」が74人で最も多く、その状態別は「歩行中

(29人、構成率39.2%)、「自転車乗用中」(20人、構成率27.0%)、「四輪車運転中」(14人、構成率18.9%)の順に多い。年齢別負傷者数では「20歳代」(5,494人)が最も多く、その状態別は「四輪車運転中」(3,648人、構成率66.4%)が約7割を占めた。

(13) シートベルト着用状況(P110~113参照)

四輪車乗車中の死者74人中、38人(構成率51.4%)がシートベルトを着用していなかった。このうち24人(構成率63.2%)は、シートベルトを着用していれば助かった可能性があった。

負傷程度別のシートベルト着用率は、負傷なし(98.9%)、軽傷(91.6%)、重傷(79.9%)、死亡(48.6%)と、着用率の低下に伴い負傷程度も重くなっている。

(14) 飲酒運転(原付以上、酒酔い運転を含む。)による交通事故(P115~117参照)

発生件数は265件(全事故の1.3%)、死亡事故件数は9件(全死亡事故の5.3%)、死者数は9人(全死者の5.1%)で、死者数の全国順位はワースト第16位である。

第1当事者の年齢層別死亡事故件数は、20歳代(6件、構成率66.7%)が最も多く、次いで40歳代、50歳代及び60歳代(各1件)である。

(15) 無免許運転による交通事故(P118~119参照)

発生件数は174件(全事故の0.9%)、死亡事故件数は5件(全死亡事故の2.9%)で、前年比では発生件数(-23件)、死亡事故件数(-1件)とも減少した。

(16) 最高速度違反による交通事故(P120~121参照)

発生件数は41件(全事故の0.2%)で、全事故に占める割合は少ないが、死亡事故件数では27件(全死亡事故の15.8%)と死亡事故の大きな原因となっている。

(17) 子供(中学生以下)が関係した交通事故(P122~126参照)

発生件数は「幼・園児」419件、「小学生」708件、「中学生」585件で、前年比では「中学生」(+49件)のみ増加、「幼・園児」(-45件)、「小学生」(-78件)は減少した。

死者数は「幼・園児」が1人、「小学生」が1人であった。

状態別死傷者数では「幼・園児」、「小学生」は四輪車同乗中(構成率:幼・園児81.9%、小学生49.9%)が多く、「中学生」は自転車乗用中(構成率65.2%)が多い。原因別では、自転車乗用中が「安全不確認」(構成率23.5%)、歩行中が「飛び出し」(構成率34.7%)と多い。

(18) 高校生の交通事故(P127~129参照)

高校生が関係した事故件数は1,205件(全事故の5.9%)、死者数が9人(全死者の5.1%)で、前年比では発生件数(-41件)は減少、死者数は増減なしである。

状態別死傷者数では、自転車運転中(構成率45.9%)、原付運転中(構成率24.4%)、四輪車同乗中(構成率17.0%)の順に多い。

死者数は、原付運転中及び四輪同乗中が各3人、四輪車運転中が2人、原付同乗中が1人であった。

(19) 青少年(16～24歳)の交通事故(P130～133参照)

青少年が関係した事故件数は6,886件(全事故の33.7%)、死者数が27人(全死者の15.2%)で、前年比では発生件数(-712件)、死者数(-11人)とも減少した。

青少年は平成5年まで死者数の最も多い年齢層であったが、平成6年に高齢者に入れ替わり、その後減少傾向にある。

青少年運転者(原付以上)による事故件数は3,959件(全事故の19.4%)で、平成13年以降7年連続で減少した。

死亡事故件数は33件(全死亡事故の19.3%)で、前年比(-8件)は減少した。死亡事故の原因別では、最高速度(構成率36.4%)、右側通行(構成率15.2%)が多く、事故類型別では正面衝突(構成率27.3%)、工作物衝突(構成率27.3%)、出会い頭(構成率24.2%)が多い。

(20) 高齢者(65歳以上)の交通事故(P134～136参照)

高齢者が関係した事故件数は4,660件(前年比-260件)で、平成18年から2年連続で減少した。死者数は74人(全死者の41.6%)で前年より大きく減少(-19人)したが、引き続き「死者数が最も多い年齢層」となっている。

状態別の死者数は、歩行中(29人、構成率39.2%)が最も多く、次いで四輪車乗車中、自転車乗用中(各20人)の順に多い。

高齢運転者(原付以上)による事故件数は2,439件(前年比-102件)と減少し、死亡事故件数は23件(前年比-19件、全死亡事故の13.5%)で前年より大きく減少した。

(21) 男女別運転者による交通事故(P137～138参照)

発生件数は男性が約6割(構成率63.5%)、女性が約4割(構成率36.5%)を占めている。発生件数の前年比では、男性、女性ともに減少、死亡事故件数は男性が大きく減少(-64件)した。

発生件数を平成10年と比較すると、男性の減少に対し、女性横ばい状態である。

死亡事故を起こした年齢層別では、男性、女性ともに「20歳代」が最も多く、事故類型別では、男性、女性とも「出会い頭衝突」が最も多い。

(22) 初心運転者による交通事故(P139参照)

発生件数は1,098件(全事故の5.4%)、死亡事故件数は11件(全死亡事故の6.4%)で、前年比では発生件数(-160件)、死亡事故件数(-1件)とも減少した。

年齢層別では「20歳未満」が最も多く、発生件数が789件(構成率71.9%)、死亡事故件数が9件(構成率81.8%)となっている。

時間別では、朝「7～9時」と「17～20時」の時間帯が多く、死亡事故では「21～1時」の時間帯に多発(構成率45.5%)した。

(23) 県外者による交通事故(P140参照)

発生件数は2,315件(全事故の11.3%)、死亡事故件数は29件(全死亡事故の17.0%)で、前年比では発生件数(-299件)、死亡事故件数(-7件)とも減少した。

路線別では発生件数、死亡事故件数とも「国道」が最も多く、都道府県別では隣接する「千葉県」、「栃木県」、「埼玉県」の居住者が多い。

(24) 事業用自動車による交通事故(P 141参照)

発生件数は1,012件(全事故の5.0%)、死亡事故件数は22件(全死亡事故の12.9%)で、前年比では発生件数(-71件)は減少したが、死亡事故件数(+3件)は増加した。

車種別では「貨物車」が最も多く、発生件数(832件、構成率82.2%)、死亡事故件数(20件、構成率90.9%)とも高率である。

路線別では「国道」(構成率47.9%)、「県道」(構成率22.1%)の順に多く、年齢層別では「30歳代」が最も多い。

(25) ダンプカーによる交通事故(P 142参照)

発生件数は104件(全事故の0.5%)、死亡事故件数は1件(全死亡事故の0.6%)で、前年比では発生件数(-13件)、死亡事故件数(-4件)とも減少した。

事故類型別では「追突」(52件、構成率50.0%)が最も多く、次いで「出会い頭衝突」(18件、構成率17.3%)の順で、時間帯別では「7~10時」及び「15~16時」が多く、「7~12時」が約4割(44.2%)を占めた。

(26) 二輪車の交通事故(P 143~144参照)

二輪車が関係した事故件数は2,214件(全事故の10.8%)、死者数が28人(全死者の15.7%)で、発生件数(-122件)、死者数(-7人)とも減少した。

このうち原付の発生件数は1,438件(全事故の7.0%)、死者数は16人(全死者の9.0%)で、前年比では発生件数(-132件)は減少したが、死者数(+1人)は増加した。

二輪車の死者28人中、ヘルメット着用は25人(構成率89.3%)であった。

二輪車による事故件数は723件(全事故の3.5%)、死亡事故件数は20件(全死亡事故の11.7%)で、前年比では発生件数(-102件)、死亡事故件数(-1件)とも減少した。

事故を起こした年齢層別は「20歳未満」が最も多く、事故類型別では「出会い頭衝突」、「転倒」、事故原因別では「前方不注意」、「運転操作不適」の順に多い。

(27) 自転車の交通事故(P 145~147参照)

自転車に関係した事故件数は2,916件(全事故の14.3%)、死者数は27人(全死者の15.2%)で、前年比では発生件数(-126件)は減少したが、死者数(+4人)は増加した。

死傷者数の事故類型別は「出会い頭衝突」、原因別は「安全不確認」が最も多い。

(28) 歩行者の交通事故(P 148~150参照)

歩行者に関係した事故件数は1,329件(全事故の6.5%)、死者数は49人(全死者の27.5%)、前年比では発生件数(-173件)、死者数(-23人)とも減少した。

死傷者数の時間帯別では「16~20時」が3割以上(34.3%)を占めており、年齢層別では「高齢者」(30.1%)、「中学生以下の子供」(19.3%)の順に多く、事故類型別では「道路横断中」、原因別では「飛び出し」、「横断歩道外横断」が多い。

(29) 外国人の交通事故(P 151~152参照)

外国人に関係した事故件数は486件(全事故の2.4%)、死者数が2人(全死者の1.1%)で、前年比では発生件数(-6件)は減少し、死者数は増減なしである。

外国人の関与した事故を平成10年と比較すると、発生件数が約1.4倍、負傷者数が約1.6倍といずれも増加傾向が続いている。

外国人による事故件数は202件(全事故の1.0%)、死亡事故件数が4件(全死亡事故の2.3%)で、前年比では発生件数(-19件)は減少したが、死亡事故(+3件)は増加した。国籍別発生件数では「朝鮮・韓国」及び「ブラジル」が最も多く、次いで「タイ」、「中国・台湾」、「フィリピン」の順に多い。

(30) 踏切事故(P 153参照)

発生件数は1件、死亡事故の発生はない。

(31) 物件事故(P 154 ~ 155参照)

発生件数は69,369件(前年比-1,239件)で、平成10年と対比して約1.2倍に増加し、平成18年から2年連続で減少した。